

スクール・フォー・アフリカ 2017年度 ご支援報告

「子どもにやさしい学校」で 学ぶために

ブルキナファソのすべての子どもが、清潔で安心できる環境の中で、質の高い教育を受け修了できるように、ユニセフが開発し推進してきた「子どもにやさしい学校」モデル。ブルキナファソの教育省はこのモデルを国内すべての学校に導入することを2016年に決定し、2017年からは教員研修にも取り入れられることになりました。

ユニセフは、子どもを中心とした学校づくり、障害のある子どもなどすべての子どもが受け入れられる学校であること、学校運営に子ども自身や地域社会に参加してもらうことを柱として、校舎建設や教材の配布などの物理的な支援だけでなく、教員研修、学校運営の改善や保護者・地域社会への啓蒙活動などの分野でも支援を継続しています。

昨年も皆さまのご支援のもと、多くの教育支援を子どもたちに届けることができました。子どもたちへのあたたかいご支援に心より御礼申し上げます。

	2010年	2017年	(目標) 2021年
幼稚園の 総就園率	2.8%	3.5%	15.0%
小学校の 総就学率※	74.8%	88.5%	106.3%
小学校の 修了率	45.8%	60.3%	100%
小学校から 中学校の 進学率	54.2%	76.8%	93.2%

※小学校の総就学率…年齢に関わらず小学校に就学する子どもの人数が、小学校の就学年齢の人口に占める割合です。事情により小学校への就学が遅れた子どもなどが多い場合、総就学率が100%を超える場合があります。



日本人スタッフが学校を訪問した際、手作りの国旗で出迎えてくれた子どもたち。

REPORT 1

子どもの学ぶ環境を整える

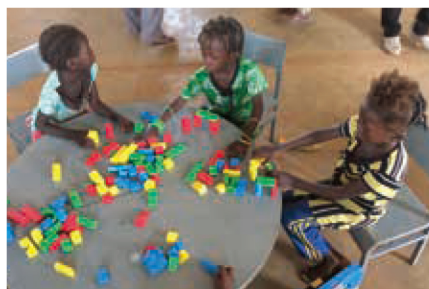
●6つの幼稚園、6つの小学校、2つの中学校の校舎建設や設備の設置のほか、5つの小学校の改修を行いました。また、サヘル地方の70校で「子どもにやさしい学校」の基準を満たすことができるように、2,000台の机の提供、クラブ活動の設立支援、5,340人の地域住民への啓蒙活動を行いました。これらの支援により、178,747人の子どもたちの教育環境が改善されました。

●50校を対象に、子どもたちが学校で手洗いをするための衛生キットや、本や本棚が入った図書室キットを提供し、9,005人の子どもたちの学習環境が改善されました。

●18の幼稚園を対象に、おもちゃ、衛生キット、給食のための調理用具を提供しました。



校庭では、道路と標識を再現し、子どもたちが交通ルールを守るための教室も行われています。

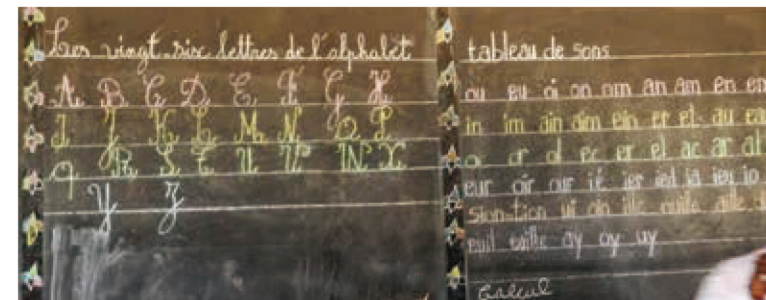


金鉱山近くに保育園ができたことで、母親たちが金鉱山で働いている間、子どもたちが通園できるようになりました。以前は、母親が働いている間、鉱山の採掘場で子どもたちは一日を過ごしていました。

REPORT 2

教育の質を向上する

- 教員843人を対象に「子どもにやさしい学校」モデルに基づいた研修を行いました。
- 公用語であるフランス語の読み書きのための「スピード学習」を導入するために、教員の指導員44人、教員115人に研修を行いました。



普段から子どもたちがアルファベットやフランス語の発音を勉強できるように、教室内の黒板にフランス語が書きだされています。

■スピード学習

公用語であるフランス語を習得するために、早い段階で子どもたちにアルファベットの読み書きを教える方法です。最初に発音を教えて、その発音と関連付く単語を子どもたちが考えてつくりながら、学んでいく方法です。さらに、アルファベットの文字や発音を示した紙を教室の壁に貼ることで、アルファベットに常に触れる環境をつくるほか、ゲー

ムなども取り入れ、読み書き、そして話すことを通して、子どもたちが学んでいきます。2016年にガンズルグ州、ナメンテンガ州、セノ州内の4つの学校で試験的に導入したところ、導入していない学校では読み書きテストの平均点が29点だったのに対し、導入した学校では69点と子どもたちの習得度が大きく改善されました。

REPORT 3

すべての子どもに教育の機会を

- ブルキナファソでは、男の子の教育が優先される傾向があるため、女の子を対象に15,000人の小・中学生に文房具などの学習キットを提供したほか、423人の女の子に奨学金の給付(50人に全寮制の学費を、373人に学費半分と通学手段としての自転車を提供)を行いました。
- 学校に通うことができなかった2,640人の子どもたちが学校に編入できるように、9か月間の集中講座を受けられるように支援しました。
- 障がいのある子どもたちを学校で受け入れられる環境が整っていないブルキナファソ。サヘル地方で2,235人の学校に通うことができなかった障がいのある子どもを見つけだし、通学の支援を行いました。また、教員の指導員180人、教員760人、地域住民236人、PTAメンバー367人、両親300人を対象に障がいのある子どもたちの教育についての研修を行いました。



地域住民や保護者が学校運営に参加できるように、PTAなどの強化を支援しています。保護者が交替で給食を調理している学校もあります。

ブルキナファソが抱えている課題

ブルキナファソの北部、隣国マリとの国境沿いのサヘル地方で、治安が悪化しています。2017年、サヘル地方で学校をターゲットにした過激派の襲撃が少なくとも15件発生しました。幸いなことに、子どもたちに直接的な被害はありませんでしたが、同地方の小学校では、1,023校のうち、141校(2018年2月21日現在)が休校を余儀なくされています。ユニセフは、子どもや教

員たちが安全に学校内で過ごすことができるよう取り組みを始めています。地域によって状況異なる中で、各学校がリスクを分析し、状況に応じた対策を取れるよう、校長や教員、地域住民を対象に研修を行っています。また、襲撃が発生した地域で学校が再開できるよう、教員を対象に心理社会的なサポートも進めています。



日本の皆さまからのご支援で、学校の外壁が整備されました。外部からの侵入を防ぐ対策のひとつです。